

Drillchocolate

[Drill Cast 2001]

部屋には男が一人。テーブルを前にして考え込んでいる。
テーブルの上には紙と鉛筆。男の名前は武藤健二。大学三年生である。

しばらくして部屋のチャイムが鳴る。武藤は動かない。
しばらくして部屋に佐々木という男が入ってくる。

佐々木 …何だよ
武藤 何だよ
佐々木 びっくりしたよ、出てこないからさあ。もうやっちゃったのかと思ったよ
武藤 …
佐々木 どう？出来た？
武藤 …
佐々木 これだな。どれどれ…ああ、成る程ねえ
武藤 そんなもんだろ
佐々木 まあ、普通はな
武藤 何だ。普通じゃ駄目なのか
佐々木 普通すぎてさあ、何かこう、インパクトが無いよな
武藤 遺書にインパクトなんて必要なのか？
佐々木 だってお前、自殺と言えれば遺書だろう
武藤 …だから？
佐々木 だから、大切だろう
武藤 まあ、大切だな
佐々木 こう…何て言うの？これ読んだ奴がさあ、お前のこと忘れなくなっちゃう位のインパクトがあった方が良かったろ？その方が死んだお前も嬉しいだろ
武藤 …まあ、それはそうだな
佐々木 これじゃあなあ
武藤 …分かったよ、書き直すよ
佐々木 大丈夫大丈夫。気にしなくて良いから
武藤 …え？
佐々木 俺が何とかしておくから。
武藤 …何？どういう事？
佐々木 だから、遺書は俺が上手く書いておくからお前は死ぬことだけ考えて
武藤 ちょっと待て、自分で書けないのか？
佐々木 だってお前これじゃあ
武藤 自分の遺書だよ？
佐々木 だから、これは原作ということで。な？原作はお前、脚本は俺。

武藤 遺書くらい自分で書かせろよ
佐々木 駄目だ
武藤 何で駄目なんだよ、おかしいだろ
佐々木 これじゃ物足りないんだよ
武藤 遺書なんてそんなもんだろ
佐々木 だってお前何だよこれは。え？「お父さんお母さん、先立つ不幸をお許し下さい」
武藤 いいじゃねえかよ
佐々木 重いんだよなあ
武藤 遺書だぞ、遺書
佐々木 お前普段両親に丁寧語使ってんのか？使ってねえだろ？手紙なんていうのはさあ、普段喋ってる言葉で書き綴った方がこう、胸にグッとくるものなんだよ
武藤 そんなもんかね
佐々木 これだと何か、かしくまっちゃうだろ？
武藤 …じゃあどうすりゃ良いんだよ
佐々木 お前普段両親のこと何て呼んでるの？
武藤 父ちゃんとか、母ちゃんとか
佐々木 それで行こうよ、普段使ってる言葉で。「父ちゃん母ちゃん、許してね。メンゴメンゴ、メンゴスチン
武藤 使ってねえよそんなの
佐々木 マンゴスチンとかけてる訳だな
武藤 いや、大体分かるけどさあ。
佐々木 使わない？メンゴメンゴ、メンゴスティン
武藤 発音良くなってるし。真面目にやれよ
佐々木 俺はイヤなんだよ、こんな、先立つとか、お許し、とか。
武藤 俺の遺書なんだよ、何回も言ってるけどさあ
佐々木 あ、省いちゃおう、な？
武藤 省く？何を？
佐々木 だから、先立つ不幸をお許し下さい、の、「先立つ」って所と「お許し」って所をさ。となると…「お父さんお母さん、不幸を下さい」
武藤 意味が分からなくなっちゃうだろ
佐々木 省いたらこうなっちゃったんだよ
武藤 そっちの方がよっぽど重苦しいよ
佐々木 うるせえなあ、じゃあお前が書けよ！（切れる）
武藤 …（？）
佐々木 …メンゴメンゴ、メンゴスティン
武藤 ああ、そう言うときに使うんだ。
佐々木 俺がうまいこと書いておくから、な？だってお前どうやって自殺するのか決めたのか？
武藤 いや、迷ってるんだけど

佐々木 まあ、もうちょっと時間あるからな。ゆっくり考えておけよ
武藤 何だよ、時間があるって
佐々木 いいから、ホラ！考えろよ。俺もこれやっつけなきゃいけないんだから
武藤 やっつけ仕事ならやらなくていいよ！
佐々木 いいから！ホラ！
武藤 ……
佐々木 （考え込み）遺書だろ？遺書…遺書…いいっしょ…いいっしょ！…（紙に書き出す）いいっしょコレ…
武藤 おい
佐々木 何だよ
武藤 …いや、何でもない
佐々木 …（書き出す）僕は毎日忙しい生活を送ってきました。あ…（考え込み）忙しい…（書き出す）遺書がしい生活を送ってきました
武藤 何？だじゃれで攻めるの？
佐々木 何が？
武藤 俺の遺書で遊ぶなよ
佐々木 ユーモアも必要なんだよ
武藤 遺書に必要なセンスなのかよそれは
佐々木 その方が後でグッと来るんだよ！感動させたいだろ？え？みんなに「あいつは良い奴だったなあ」って言わせたいだろ？
武藤 だって…
佐々木 みんなに泣いて欲しいだろ？え？違うのか？だったら大切だろう、遺書は。
武藤 ……
佐々木 だったら黙ってる
武藤 ……
佐々木 …（書き出す）今までで一番の思い出は、遠足の時に人喰い虎と戦った時のことです。あいつは鋭い牙で何人もの村人を…
武藤 嘘を書くなよ！
佐々木 ワクワクさせろよ
武藤 何言ってんだよ、訳わかんねえよ
佐々木 あーもう！うるせえなあ！頭来た。「女に振られて死にます」これでいいだろ？
武藤 …それはちょっと
佐々木 本当の事だろ
武藤 ……
佐々木 …君の声を聞くだけで僕は
武藤 幸せな気持ちになれた
佐々木 …成る程（書く）

部屋のチャイムが鳴る。

武藤 …誰だよ
佐々木 ああ、俺が出る

佐々木が玄関に向かう。杉山という女性が入ってくる。

杉山 こんにちは
武藤 杉山ちゃん、どうしたの？
佐々木 俺が呼んだんだよ
杉山 武藤君自殺するんだってね。頑張って
武藤 え？ああ…うん
佐々木 ホラ、遺書
杉山 え？見せて見せて
佐々木 どう？凄いでしょ？
杉山 …うん、でも
佐々木 何？
杉山 何か暗くない？不幸を下さいとか言って
武藤 佐々木が書いたんだよ
佐々木 どうすればいいかな？
杉山 難しいね
武藤 元に戻せばいいんだよ
佐々木 杉山ちゃんさあ、好きなモノって何かある？
杉山 キムタク好き
佐々木 キムタク入れちゃおう
杉山 いいの？
武藤 良くないよ
佐々木 いいのいいの
武藤 どこに入れるんだよ、キムタクを
佐々木 ホラ、ここに入れてさあ。「キムタクの声を聞くだけで僕は幸せな気持ちになれた」
杉山 いいねえ！
武藤 ちょっと待てよ！俺がキムタク大好きみたいになっちゃってるじゃねえか！
佐々木 ねえ、いいでしょ？
杉山 うん
武藤 俺の遺書なんだよ、ねえ
佐々木 お前は黙って自殺の方法でも考えておけよ
武藤 …勝手にしろ
杉山 ああ、武藤君
武藤 何？
杉山 妙子後で来るかもよ
武藤 …え？
佐々木 何？妙子ちゃん呼んじゃったの？

杉山 え？まずかった？
佐々木 言っちゃったの？こいつが自殺するって
杉山 うん
佐々木 何で言っちゃうの。誰にも言わないでねって言ったでしょ？
武藤 まずお前が誰にも言うなよ
杉山 ゼミが終わったら来るかもって
武藤 …その頃には死んでるよ
佐々木 …ねえ杉山ちゃん、いつになったら俺と付き合ってくれるの？
杉山 えーだって佐々木君軽そうなんだもん
佐々木 軽くない軽くない、俺一途だって
杉山 本当？
佐々木 ねえ、いいでしょ？俺と付き合ってよ
杉山 どうしようかなあ
佐々木 どうしようかなあとか言って、可愛いなあ
杉山 でも佐々木君彼女いるでしょ？
佐々木 別れたって。もうとっくに
杉山 えー私聞いたけどそんな事言ってなかったよ
佐々木 俺は杉山ちゃん一筋だって
杉山 信用でき無いなあ
佐々木 もう、どうしたら信用してくれるの？
杉山 信用できません
佐々木 目、見てよ。ホラ、嘘ついてる目じゃ無いでしょ？
杉山 え？
佐々木 ホラ
杉山 …
佐々木 俺、本気だから
杉山 …佐々木君（顔を近づける）
武藤 佐々木君
佐々木 何だよ
武藤 ここでするのか？違うだろ？
佐々木 気にするなよ
武藤 ここはもうすぐ死体が出る部屋だぞ
佐々木 燃えるう
武藤 変態だよお前は
佐々木 何だよ、じゃあどこですればいいんだよ
武藤 ここ以外のどっかだろ
佐々木 お前可哀相じゃん
武藤 今がな、今が
佐々木 じゃあお前がどっか行けよ
武藤 何でそうなっちゃうんだよ、邪魔するなら帰れよ

杉山 武藤君、あとどれぐらいしたら死ぬの？
武藤 …いや、まだ、もうちょっと
杉山 人が来る予定になってるからもうちょっと待っててね
佐々木 妙子ちゃんの事？
杉山 弟の事
武藤 弟？杉山ちゃんの？
杉山 うん
佐々木 弟にも話しちゃったの？
杉山 うん。家族で食事してる時に
武藤 そんな時に？そんな時に俺が自殺するって？
杉山 うちにご飯の時テレビつけないから
武藤 いや、そうじゃなくて。じゃあ何？杉山ちゃんの家族全員知ってるの？俺が自殺するって
杉山 その話題でもちきり
武藤 だろうけどさあ
佐々木 弟さんは何しに来るの？
杉山 見たいんだって、色々
佐々木 自殺止めに来る訳じゃないんだ
杉山 お父さんも来たがってたんだけど
佐々木 お母さんは？
杉山 お母さんも来れないから。葬式で我慢するって
武藤 我慢って…
杉山 弟興奮してたよ
武藤 興奮されてこの部屋来られても困るよ
杉山 まずかった？
佐々木 まずい、まずいよ
武藤 そうだよ、まずいって
佐々木 何とかしなきゃなあ
杉山 えーどうしよう。弟勢いついてたからなあ
武藤 普通つく？勢いがさあ
佐々木 とりあえず！買い物行こう
武藤 …は？
佐々木 何も無いからなあ、この家
武藤 何？何で？
佐々木 こうなったらあれだ。おもてなししないと、ねえ。弟さんの期待に応えるためにもさ
杉山 そんな気を使わなくていいよ
佐々木 ダメダメ、近くにコンビニあるから。そこに買い出しに行こう
武藤 何を？
佐々木 ジュースとか、おかしとか。行こう、杉山ちゃん

杉山 あ、うん
佐々木 じゃあちょっと行ってくる。何か欲しい物あるか？
武藤 ない
佐々木 それじゃあ行ってくるわ
杉山 行ってきます
武藤 …
佐々木 死ぬなよ、帰ってくるまで

佐々木と杉山行く

武藤 …世の中狂い始めてるなあ

しばらくしてチャイムが鳴る

武藤 …

武藤が玄関の方に行く。佐山という男と安子という女が入ってくる。

佐山 失礼いたします。
武藤 あの
佐山 私こういう者でございます（名刺）
武藤 佐山葬儀社…
佐山 小さい葬儀屋で御座います。武藤様でいらっしゃいますね？
武藤 はい、そうですけど
佐山 この度はご愁傷様でした
武藤 …誰がです？
佐山 武藤様が
武藤 僕が？
佐山 ご愁傷様でした
武藤 まだ死んでませんけど
佐山 ええ、ええ、存じております
武藤 え？
佐山 もうすぐ？ねえ。もうすぐ？ねえ自殺を。ねえ。ブシューっと、派手に、ねえ
武藤 あの
佐山 是非うちでお葬式を！
武藤 あの！
佐山 はい？
武藤 何なんですか、いきなり
佐山 何だチミはってか
武藤 言ってませんよそんな事

佐山 あ、これは。これはこれは失礼いたしました。本当に、つい、興奮してしまっ
て。いやあ申し訳ない。メンゴメンゴ、メンゴスチン
武藤 流行ってるんですかそれ？俺の知らないところで、ねえ
佐山 お噂を耳にしまして
武藤 噂？
佐山 ええ。武藤様が自殺なさるという
武藤 え？どこで聞いたんですかそんな噂
佐山 ハム無線で
武藤 何？
佐山 是非うちでお葬式を！
武藤 いや、あのね！あの…しませんからそんな事
佐山 …え？（安子の方を向いて）
武藤 俺だから。喋ってるの。あのね、どこでそんな噂聞いたのか知りませんが、
僕自殺なんかしませんから
佐山 また
武藤 何ですか
佐山 出た出た
武藤 何がですか
佐山 メンゴメンゴメンゴスチンとおっしゃって頂きたい
武藤 言いませんよ。なので今のところ葬式も必要ありません。お引き取り下さい
佐山 …いやです！
武藤 は？
佐山 死んでも帰りません！
武藤 何なんですかあなたは。非常識な人だなあ
佐山 あなたは今までにどれだけ人の役に立ちましたか！
武藤 …何ですか突然
佐山 あなたが生きてきてどれだけ人の役に立ったと言うんです！一生のうちに一度
でも「ああ、人の役に立ったなあ」と思いたくはありませんか？…私はねえ、
ああ、こんな事言っているものなのかわかりませんが、近頃の不況の
せいで生活も苦しくなる一方で
武藤 はあ
佐山 女房も日に日にやせ衰えて…
武藤 はあ
佐山 人の役に立つと言うこと。それを成し遂げてから人生を終わりにしたい。そう
は思いませんか？
武藤 そうですね
佐山 それが今なんです！今こそ人の役に立つ時なんです！あんた私のために死ぬべ
きなんだ！
武藤 失礼だな
佐山 ナンボ！死んでナンボ！

武藤 やめなさいよ
佐山 女房が家で待ってるんです！私の帰りを！あなたの首を持ち帰らないことには女房に会わせる顔がないんです！

武藤 表現悪いよ、さっきから
佐山 お願いいたします！

武藤 …あれ
佐山 何か？
武藤 奥さん、家に？
佐山 私の帰りを待ちわびております
武藤 ああ、ああそうか。その人が奥さんじゃないのか
佐山 え？
武藤 何だ。その人が奥さんだと思っちゃった
佐山 その人？
武藤 その人
佐山 …この部屋には私と武藤様しかおりませんが
武藤 …またあ
佐山 は？
武藤 だって、その人
佐山 …武藤様、いい加減にしてください
武藤 え？
佐山 葬儀屋を馬鹿にしていらっしゃるんですか？
武藤 え？
佐山 葬儀屋は人の死を取り扱う。だからお化けが憑いてるんじゃないかねえか？そんな偏見は持たないで頂きたい！

武藤 だってそこに…
佐山 何ですか、私がどこかの葬儀場から持って来ちゃったとでもいいたいんですか
武藤 でもそこ
佐山 私に悪霊が憑いているとでも言いたいんですか（安子が佐山の肩に手をかける）
ああ肩が重い

武藤 でしょうね
佐山 最近私がめっきりついてないのもその悪霊の仕業だと言うんですか？え？（安子が佐山の背中に乗る）私が最近めっきり疲れやすくなってるのもそのせいだって言うんですかああ何か重たくなってきたな畜生

武藤 乗ってます、乗ってますよ
佐山 乗ってますよ、ノリノリですよ、
武藤 いや、そうじゃなくて
佐山 （安子が佐山の頭に手をかざす）コロッケパンが食べたいよう…（手を離す）
何ですか
武藤 今、声が
佐山 （安子が手をかざす）コロッケパンが食べたいよう！

武藤 ああご免なさいご免なさい！
佐山 何ですか、何をしてらっしゃるんですか
武藤 だって、
佐山 壊してしーまーうーのはー
安子 センパーイ…
武藤 何か言った！今何か言った！
佐山 是非うちでお葬式を！
武藤 帰れ！帰ってくれ！
佐山 死ぬまで帰りません！
武藤 死ぬから、あんたそのうち死んじゃうだろうから！ね、帰って！
佐山 ちょっと！何をするんですか！
武藤 出てけ！ホラ！
佐山 あ、ちょっと！

武藤は佐山を追い出す。
しばらくして武藤が玄関の方からやって来て

武藤 何なんだよ、全く

座ろうとする武藤。すると台所の方から安子がやってくる

武藤 葬儀屋さん！忘れ物！忘れ物ですよ！ちょっと！

すると安子が玄関の方に先回りして

安子 …する？
武藤 しない！何をかはイマイチ分かんないけどしない！
安子 早くおいでよ
武藤 何？何が？
安子 こっちに早くおいでよ
武藤 …
安子 滅茶苦茶にしてよ
武藤 しないよ！何でさっきから微妙にエロなんだよ！訳分かんないよ！もう、葬儀
屋さん！
安子 私もね、自殺だったの
武藤 …
安子 友達
武藤 違うから
安子 以上恋人未満
武藤 そういうカテゴリーに当てはまらないから

安子 自殺するとね、上に行けないの
武藤 …
安子 だから寂しくて、やっと見つけたって感じ
武藤 何を？
安子 友達
武藤 違うから
安子 以上恋人以上
武藤 欲張りすぎだよん。…あの、ですね。あの、さっきも言ったんですけど僕自殺なんてしませんから
安子 え？
武藤 あれ？聞いてませんでした？さっきあの葬儀屋さんに言ったんですけど、僕自殺なんてしませんから。どこでそんな噂が流れたのか分かんないですけど全く迷惑な話ですよ参っちゃう。そう思いませんか？
安子 …そうなの？
武藤 そうなんですよ、全くねえ。参っちゃうんだ実際。
安子 嘘
武藤 嘘じゃない、本当です。
安子 …そうなんだ
武藤 そうなんですよ。すみません何か勘違いさせちゃって。…あ、今ならあの葬儀屋さんに追いつくんじゃないですか？間に合いますよまだ
安子 …やっと、友達が出来ると思ったのに
武藤 ごめんなさい
安子 …それじゃ
武藤 あ、はい。

安子が帰ろうとする。するとチャイムが鳴る

武藤 あ、葬儀屋さん戻ってきたのかな

すると杉山弟が入ってくる。弟は微動だにしない。

武藤 …あの、
弟 …武藤さんですか
武藤 そうですけど
弟 …ポー！
武藤 何？何？
弟 ポー！ポー！ポー！

ポーポー言いながら弟は床をゴロゴロ転がり出す

武藤 え？何？どうしよう！発作かな？発作かな？

そこに杉山と佐々木が帰ってくる

佐々木 あー重い。買いすぎたなあ

杉山 ねえ

武藤 あ、おい！どうしよう！何かポーポー何かポーポー！

杉山 ああ、気にしないで

武藤 気にするよ、何コレ？

佐々木 コレとか言うなよ、杉山ちゃんの弟なんだから

武藤 え？

佐々木 コンビニで偶然会ってな

武藤 ああ、そうなんだ

佐々木 待ちきれないって言って先に行っちゃったんだよ

武藤 …

杉山 気にしないで、ただ興奮してるだけだから

武藤 そうなの？

弟はムクッと起きあがって

弟 あー感激だなあ。

杉山 どう？感想は

弟 最高だよ！今からこの部屋で人が死ぬのかと思うとワクワクするよ

安子 え？

武藤 あ！

佐々木 見て見て、遺書だよホラ

弟 え！マジッスか！

武藤 あのさ！ちょっと

弟 すげえ！武藤さん！

武藤 何？

弟 人喰い虎と戦ったことあるんですか！

武藤 いや、あのね

弟 今日は堪能させていただきます！

佐々木 じゃあさ、まだ死ぬまで時間あるみたいだから

杉山 ジュース飲もう、ジュース

3人は買ってきたものをテーブルの上にひろげていく
武藤は安子を見る。安子は満面の笑みを浮かべている

安子 嘘つき

武藤 …
安子 しないでよ
武藤 …ん？
安子 浮気しないでよ（ニッコリ）
弟 あの、写真撮っていいですか？
武藤 何？
弟 写真、記念に
佐々木 いいよいいよ、撮りなよ
弟 ありがとうございます！

（弟は持ってきたバッグからカメラとフィルムを取り出す）

佐々木 フィルムまで、用意が良いなあ
弟 昨日から準備しちゃいましたよ
杉山 楽しみにしてたもんねえ
弟 記録として残しておきたいんですよえ、だって滅多に見れるものじゃないでしょ？撮って撮って撮りまくってやろうかと思ってるんですよ。いやあ、嬉しいなあ、懂れてたんですよえ僕も自殺にだって格好良くないですか？

といいながら弟はフィルムを出し続けている

武藤 何枚撮る気だよ！
弟 え？
武藤 え？じゃなくて。それ。山のように積み上げてるそれ！
弟 36枚撮りですけど
武藤 そうじゃなくてさあ！
佐々木 弟さんは、何でそんなに楽しみにしてるの？こいつが自殺するの
弟 僕も自殺したいんですよ
佐々木 そうなんだ
弟 いつかやってやろうと思ってるんですけどね
杉山 小さい頃からずーっと言ってたもんねえ
弟 夢なんだ
杉山 ね
弟 うん
佐々木 …ふーん
弟 だから今日は武藤さんのを参考にさせて貰おうかなあと思ってるんですよ
杉山 ちゃんと見ておきなさいよ
弟 うん。ザックリとお願いします
武藤 …
佐々木 じゃあさあ、研究とかしてたわけだ。自殺に関する

弟 ええ、
佐々木 この遺書なんだけど、どうかなあ
弟 ちょっと見せて貰えます？ああ、ここは…こうしたほうが
佐々木 ほう、成る程
杉山 ちょっと私にも書かせてよ

三人は遺書で盛り上がっている。
安子は武藤に何事か耳打ちをする。そして出ていってしまう

佐々木 …（武藤に気づいて）何だよお前、どうした？
武藤 準備して来るってさ！あーあ！
佐々木 何？何が？
武藤 お前らのせいでさ！準備して来ちゃうんだって！何かわかんねえけど！
佐々木 あいつどうしたのかな？
弟 いやあ、僕には分かりますよ。自殺する前には誰でもナーバスになるじゃないですか、それですよきっと
武藤 いやだなあ俺！いやだなあ俺！
弟 あー、あの顔良いなあ、まさに追い込まれた人間の顔ですよ
佐々木 写真写真
弟 ああ、ハイ！（写真を撮り出す）うおー！何か切ねえー！（カメラのファインダー越しに）
武藤 …（テーブルに近づいてきて座る）撮りすぎ…撮りすぎ
弟 …え？
武藤 撮りすぎだって言ってんの
弟 僕がですか？
武藤 お前しか撮ってないだろ
弟 ああすいません、夢中になっちゃって。
佐々木 どうやって死ぬか決めた？
武藤 考える暇もなかったよ
弟 武藤さん、何で自殺しようと思ったんですか？
武藤 え？…なんだっていいじゃない
佐々木 女に振られたからだよ
弟 女の人に
武藤 …
弟 女の人に
武藤 …
弟 女の人に！？
武藤 そうだよるさいなあ！
弟 どんな人ですか、その人
武藤 …

弟 へえ
武藤 何も言ってねえよ、何？お前サトラシ？サトラシっちゃえる訳？
弟 いやあ、大体分かりますよ。何となくですけど
佐々木 どんな人だと思う？
弟 分かりませんよそんなの
武藤 分かるって言ったじゃねえかよ！
弟 言葉にすると消えてなくなりそうで
武藤 詩人だなあ急に？何で？
弟 何で振られちゃったんですか？
武藤 …
佐々木 教えてあげろよ
弟 教えて下さい
武藤 …相手に付き合ってる奴がいたんだよ
弟 二股ですか？
武藤 …
弟 え？
武藤 ああもううるせえなあ！放っとけよ！
佐々木 別に付き合ってたわけじゃないの
弟 え？じゃあただ告白して振られたんですか？
武藤 …
弟 …ポー！
武藤 そこでポー！なのか？
弟 女々しい！小さい！それだけで自殺するなんて！ぬるーい！
武藤 杉山ちゃん弟のしつくて誰がやったの？
杉山 でも情けないよね
弟 いやあ最高だ！武藤さんは最高だ！最高の男だ！自殺界のプリンスだ！
佐々木 俺も言ったんだよ、それだけで死ぬ事無いって
弟 いやいや死ぬべきです、早めに死んだ方がいいんだこういう人は！ああ！最高
 だ！
武藤 殺すかな？なあ？殺すかな？
弟 その女の人はどんな奴と付き合ってたんですか？
武藤 …
弟 んもう！いちいち黙るんだからあ！
武藤 何で答えなきゃいけないんだよ！
佐々木 俺が代わりに答えましょう
弟 え！？知ってるんですか？
佐々木 その相手の男は
武藤 言わなくていいよ
佐々木 何で？知りたがってるんだからさあ
弟 誰なんですか？

佐々木 あかねえ
武藤 やめろ
佐々木 俺！
弟 …え？
佐々木 俺がその相手の男
弟 …そうなんですか？
佐々木 うん
弟 …何でそんなに堂々と言えるんですか？
佐々木 だってそうなんだもん
弟 武藤さんと友達じゃないんですか？
佐々木 幼なじみ
弟 それなのに？
佐々木 それなのに

一同…

と、武藤以外の3人が爆笑

武藤 笑うとこ！？
弟 追い込むなあ！非道い非道い！
佐々木 俺内緒にしたからさあ、
杉山 でも武藤君だけだよ、知らなかったの
弟 そうなの？
杉山 勝手に盛り上がっちゃって
弟 ポーポー！
武藤 帰れ！帰れよ！
弟 帰れませんよ
武藤 おかしいよお前ら
杉山 でも佐々木君別れたんでしょ？
弟 え？そうなんですか？
杉山 だってさっき言ってたでしょ？別れたって
佐々木 ああ、あれ？冗談冗談
杉山 え？だって別れたから私と付き合いたいって
佐々木 そういえばやらせてくれそうだったから

一同…

武藤以外の3人が爆笑

武藤 笑えるんだ？何で？何でだろう
弟 やらせそうやらせそう！

武藤 姉ちゃんのこと言われてるんだぞ？
佐々木 それをこいつの前で言ったの、さっき
弟 ひでえ！どっちに対しても非道い！
佐々木 俺は彼女一筋だから
武藤 杉山ちゃん、いいの？こんな事言わせてさあ
杉山 いいのいいの、話半分だから
武藤 …何に対して？意味が分からないよ
佐々木 それでさ、こいつが死ぬって言うから、俺が手伝ってあげてるわけだよ
弟 佐々木さんは胸が痛まないんですか？
佐々木 だって本人がしたいって言うてるんだから。友達として協力してあげなきゃ
弟 成る程
佐々木 もうすぐ来るらしいからさ
弟 え？その女の人ですか？
佐々木 そう。ねえ杉山ちゃん、もうすぐ来るんでしょ？
杉山 うん、そう言ってたよ
弟 え？もしかして自殺を止めに来るんですかね。だとしたら断固阻止の構えだなあ
武藤 阻止しちゃうの？君が？
弟 邪魔者は消せの掟通りですよ
武藤 じゃあ君がまず消えなさいよ
弟 ポー！
武藤 ポーの基準を教えてくれよ、うるさくてしょうがねえよ
佐々木 でも本当に何しに来るんだろ
杉山 分かんないけど、怒ってたよ
武藤 え？怒ってた？
杉山 うん、怒ってた
武藤 俺が、死ぬから？
杉山 分かんないけど
武藤 ふーん…ねえ杉山ちゃんさっきから何書いてるの？
杉山 え？
武藤 何かさっきから一生懸命書いてるけど
杉山 ああ、これ（ノートにはコボちゃんが）
武藤 コボちゃん！？何でコボちゃん！？
杉山 可愛くない？
武藤 俺の遺書だよ？何でコボちゃん書いちゃうの？
杉山 だって好きだから
武藤 落書き帳じゃないの、分かってる？
佐々木 そんなに怒るなよ
武藤 信じられないよ、ホント信じられない！何で女の子がコボちゃん書くのかも分かんないし、コボちゃん書けるっていうのも理解できないし

弟 まあインパクトはありますけどね
佐々木 そうだよ、遺書にインパクトが必要だってさっき言っただろ？
武藤 遺書だぞ？遺書にコボちゃんだぞ？俺が何で死んだのかサッパリ理解されないよ！見ろコレ！見ろ！（次のページには美味しんぼの山岡と栗田が）…美味しんぼ！？
杉山 好きだから
武藤 杉山ちゃん！
杉山 何？
武藤 何だこのアダルトな漫画の選択は！？若さがないよ若さが！
佐々木 落ち着けよ
武藤 分かってる分かってる、俺の言ってることも徐々にずれて来てるのは分かってる。でも何か、なーんか、ああ、俺なんかもう
弟 その顔ですよその顔！（カメラを構えて）ポー！（シャッターを押し続ける）
武藤 …やめた
弟 え？
武藤 やめたよ俺。やめたやめた
佐々木 何を？
武藤 死ぬの辞めた
弟 ちょっと！何を言い出すんですか！
武藤 死ぬるか！？この状況で！？え？何かもう、全部嫌になっちゃうよ
弟 だからこそその自殺を！
武藤 ダメ、何かもう、ダメ俺
弟 どうするんですか！
佐々木 どうするってねえ
杉山 うん

そこにチャイムが鳴る

杉山 あ、妙子来たのかな？
佐々木 どうする？
武藤 どうもしないよ

チャイムが鳴る

杉山 とりあえず、出ようか？
佐々木 いや、ちょっと待って
弟 何ですか？
佐々木 …隠れない？
杉山 何で？
佐々木 どうなるかさあ、見てみたくない？

杉山 あ、見てみたい
弟 うーん、確かに
佐々木 こいつが告白したときも見て面白かったもん
武藤 …お前あの時見てたのかよ！

チャイムが鳴る

杉山 どこに隠れるの？
佐々木 台所行こう、台所
弟 武藤さん、僕は信じてますからね。あなたがやり遂げることを！
佐々木 早く、隠れるぞ！
弟 信じてますよ！
杉山 早く！

三人は台所に隠れる。チャイムが鳴る

佐々木 出ろよ！ホラ！
武藤 …

武藤は動かない。しばらくして妙子が入ってくる。
沈黙が続く。
妙子がゆっくりと近づいてくる。

武藤 …俺

妙子は持っていたアンアンで武藤を殴りつける。まさに会心の一撃である。
武藤はバツタリと倒れる。

佐々木 何故だー！（小さな大声で）

妙子 ねえ武藤君。ハッキリ言って良い？あなたに死なれたら困るの。だってそうでしょう？寝覚め…そう、寝覚めが悪いのよ。あなたが死ぬのは勝手だけど、それを私の責任にするのはどうかと思うの。私がこれから生きていく上で、私のせいで自殺した人が居る、そういう事実が残るだけで何か嫌なのよ、分かるでしょ？ねえ、分かってくれるよね、ねえ
弟 分かってないでしょうね
佐々木 意識無いだろうからなあ
妙子 …武藤君

妙子は武藤をさする。武藤はピクリとも動かない。困ったなあ、どうしよう。ふと遺書に

目をやる妙子。遺書を手にする

妙子 「父ちゃん母ちゃん、不幸を下さい」…意味が分からないわ…「女に振られて死にます」…ホラ、こういうのがイヤなのよ…「キムタクの声を聞くだけで僕は幸せな気持ちになれた」…？

杉山 どうしたのかな？

佐々木 私の責任じゃないのかなって

弟 思うでしょうね、文章的に

妙子 ? (パラパラと絵のページを行ったり来たり)

杉山 あれは？

佐々木 突然のコボちゃんと美味しんぼに戸惑ってるんだらうね

弟 今までに無い遺書の構成ですから

妙子は倒れてる武藤を見る。そしてほっと胸をなで下ろす

杉山 何でほっとしてるんだらう

佐々木 遺書に自分の名前が書いてなかったからだらうね

弟 自分のせいじゃなかったら死んでも良いのか。いやあ、クールだなあ

杉山 見て、何か

妙子は倒れてる武藤の髪の毛を撫でて

妙子 …ありがとう

弟 ありがとうでは無いでしょう？ねえ

佐々木 ありがとうでは無いだらうね

チャイムが鳴る

杉山 誰だらう

妙子 武藤君、誰か来たよ、武藤君

そこに葬儀屋佐山が入ってくる

佐山 武藤様、もう一度考え直しては頂けないでしょうか！

妙子 …あの

佐山 武藤様…武藤様！（武藤の方に駆け寄ってくる）

妙子 あの

佐山 武藤様！武藤様どうなされたのですか？まさか…ガッチリ？ねえ、パッサリ？ねえ

佐々木 誰なんだあいつは

弟 さあ
佐山 モッサリ？ねえベッチャリ？ねえ、ねえねえねえ
妙子 何ですか？
佐山 しないっていったのに！してるじゃないですか！ねえ
妙子 はあ
佐山 さっきねえ言ったんだこの人。自殺なんかしないって。それがどうですか、この有様は！有り難う御座います有り難う御座います
妙子 あの、
佐山 はい、なんででしょうか
妙子 まだ、死んでないと思いますよ
佐山 え？だって
妙子 寝てるだけですよ
佐々木 寝てるだけでもないだろう
佐山 死んでますよ
妙子 いや、生きてます
佐山 どう見たって死んでるじゃないですか
妙子 だってホラ、息してるじゃないですか
佐山 …聞こえませんかあ
妙子 ホラ、スースー言ってるじゃないですか
佐山 …スースー？
妙子 スースー
佐山 どれ…（耳を近づけて）おおう…おおう
弟 何ですかあれは
佐々木 息が耳にあたってるんだろう
妙子 あの…
佐山 死んでますな
佐々木 嘘つくなよ！
佐山 私はねえ、こんな事言って良いものなのかどうか分かりませんが、この間まで大企業にいましてね、リストラですよリストラ。不景気には勝てない、そう思いませんか？
妙子 そうですね
佐山 この不況でしょ？何か商売始めるって言ってもねえ、何をやればいいのやら…そこで思いついたのが葬儀屋ですよ、だってそうでしょう？不況だ、失業だ、自殺だ、死体がゴロゴロだ、葬儀屋だ、儲かる儲かるだ
妙子 はあ
佐山 あさはかだったあ！
妙子 でしょうね
佐山 今月中に3体！死体を集めないとうちは潰れちまうんですよ！腐りかけの人体で生活してるわけですから僕らは！
弟 あの人の表現悪いなあ

佐山 だから！ここは一つ見て見ぬ振りをしていただきたい！
妙子 え？
佐山 やっちゃいましょうこいつ、ザックリと
妙子 ええ！
佐山 背に腹は代えられません
妙子 そんな！ダメですよ！
佐山 あれやりましょう、あれ、こいつ割り。ねえ、そうだそうだ
妙子 あの、こいつ割りって…
佐山 行きますよ！（と言いながら部屋においてあるギターを持ち、ギターを支点に
グルグルグルグル。目をつぶって歩きながら）やろう！どこだあ！？
妙子 ちょっと！やめて下さい！危ない！ちょっと！
弟 どうしましょう！
佐々木 うーん、出れない
杉山 怖いもんね
佐山 なーつだーねー（ギターをブンブン振り回す）
妙子 やめてー！

そこで武藤が目を覚ます

妙子 あ
武藤 ん？あれ？
妙子 こんにちは
武藤 こんにちは…あれ？俺寝てた？
妙子 ぐっすり
武藤 ふーん…
弟 結構したたかな女ですね
佐々木 そうね…
武藤 …（佐山の方を見る）何してるんですか
佐山 …ジミヘン
武藤 ふーん…って何勝手に入ってきてるんですか
佐山 いや、考え直していただくと思ひまして
武藤 え？
佐山 自殺の件で
武藤 …ああ、あれ
佐山 お願いいたします！
武藤 …
妙子 ねえ、自殺の件って何？
武藤 いいのいいの、気にしないで
佐山 お願いいたします！
武藤 …

佐山 ホラ！おっちね！
武藤 あんたさあ！
妙子 武藤君、死ぬの辞めたんだ
武藤 え？何それ
妙子 あの人がさっきそう言ってたから
武藤 …え？
妙子 あの人に死なないって言ったんでしょ？
佐山 考え直していただきたい！
武藤 …
妙子 自殺するって、冗談だったんだ
武藤 あ、いや
妙子 …ふーん

沈黙が訪れる

佐々木 完全に出ていくタイミングを失ってしまったなあ
弟 武藤さん丸め込まれちゃうんじゃないかなあ、心配だなあ
妙子 …あんまり冗談で死ぬとか言わない方がいいんじゃないかな
武藤 …
妙子 まあ、関係ないけど
武藤 …
佐山 武藤様考え直しては頂けないでしょうか
妙子 無駄だと思いますよ
佐山 しかし…
妙子 自殺なんかできっこないですよ、この人に
武藤 …何でそんな事言うの？
妙子 だってそうでしょ？
武藤 妙子ちゃん何でここに来たの？
妙子 武藤君が自殺するって聞いたから
武藤 …心配して？
妙子 …
武藤 心配して？
妙子 …
武藤 ねえ心配して！？
妙子 心配はしてない
武藤 じゃあ何で
妙子 …
武藤 じゃあ何で！？
妙子 ちょっとやめて、触らないでよ
武藤 心配してきてくれたんでしょ！？ねえ

妙子 触らないで！
武藤 …
妙子 …武藤君ってさあ、前から思ってたんだけど
武藤 何？
妙子 …気持ち悪いよね
武藤 …
杉山 うわー
佐々木 会心の一撃だなあ
武藤 …
佐山 …（ポンと武藤の肩に手を乗せて）これはもう…死ぬっきゃナイトでございま
しょう
武藤 …俺はねえ
妙子 何？
武藤 君のことが
妙子 私好きじゃないからね
武藤 …君を見てるだけで心が
妙子 私ムカムカするからね
武藤 …君のことが何よりも
妙子 どうでも良い存在だからね
武藤 わーん！コノヤロ！
妙子 何よ
武藤 言わせろ！言わせて！
妙子 聞きたくないもん
武藤 じゃあ何でここに来たんだよ！
妙子 言って良いの？
武藤 え？
妙子 言って良いの？
武藤 …それは何？聞いたら僕の心壊れる？
妙子 分かんないけど
武藤 …壊れるかな
妙子 言おうか？
武藤 …言って。言ってくれ。言ってくれた方がスッキリするってもんだ！
妙子 あのね…
武藤 アダアダアダアダアダ（耳をパチパチしながら）
妙子 何？
武藤 何が？
妙子 …だからね、何で私がここに来たのかって言うと…
武藤 アダアダアダアダ
妙子 もう！何！？何よアダアダアダって！
武藤 ダメだ！淡い期待が壊れることに体が付いていかない！

佐々木 壊れ始めてるな
弟 いい調子ですよ
武藤 分かってるんだ、君の体中から発している俺に対して有害なオーラを。見えてるんだ俺は。だけど耳が！心が！俺の柔らかい部分がそれを認めたくないって言ってるんだ、野球は九回ツーアウトから、AV女優から華の芸能界へ、そんな夢物語を語ってるんだ。ねえ無いよね、そんな土壇場からの大逆転みたいなサクセスストーリーはこの場合においては無いんだよね！？

妙子 …な
武藤 アダアダアダアダアダ！
妙子 もう！うるさい！
武藤 アダアダストップ！アダアダストップ！はい、どうぞ言って下さい
妙子 …

沈黙の後

武藤 うるさい！このシーンがうるさい！ちょっと待ってちょっと待って！ジョジョの奇妙な冒険ね。スタンドスタンド。はい。お！れ！はアアアア！は！な！し！をオオオオオオオ！き！く！ぞオオオオオオオ！はいどうぞ

妙子 何やってんの？
武藤 言って言って
妙子 次なにやるの？
武藤 何もしないから、しないしない

佐山が武藤を羽交い締めにする

武藤 何？何だ？
佐山 さ、どうぞ痛恨の一撃を
武藤 やめて！ちょっと！
佐山 ラァにはいつでも会いにいけますから
武藤 何？
佐山 心！壊して！
妙子 （武藤の目の前に立ち）何で私がここに来たのかというと
武藤 はい…
妙子 武藤君が自殺するって聞いて
武藤 うん
妙子 それはどうでも良かったんだけど
武藤 …アダアダアダ
佐山 無駄無駄無駄無駄アアアア！
武藤 ジョジョ！ここにも！
妙子 …もしニュースとかになって、その…私に振られて死ぬとか遺書に書いてあっ

たら、困るじゃない？そういう場合って大抵私が悪者になっちゃうでしょ？

武藤 え？

妙子 今就職活動してるし

武藤 アダ…アダ…

妙子 死ぬのは勝手だけど私に迷惑かけないでって言いに来たの
一同…

佐山が手を離す。すると武藤はペタリと座り込む。

妙子は武藤に近づき手をさしのべる

武藤 え？

妙子 さようなら

佐山は拍手をする

佐々木 拍手なのか？

弟 拍手でしょう！拍手ですよ！

そう言いながら弟は拍手をしながら出ていく

妙子 え？

弟 有り難う御座います！最高でした！

杉山 （拍手をしながら出てきて）格好良かったよ

妙子 あれ？何で？

佐々木 （拍手をしながら出てきて）ナイスファイト！ナイスゲーム！

妙子 何やってんの？

佐々木 やっと出てこれたよ

佐山 さあ！行きましょうか武藤様！

大きな拍手に包まれる。

暗転。

弟 写真撮りましょう！写真！

杉山 綺麗に撮ってよ

弟 分かってるって

妙子 居たんだ、知らなかったな

佐々木 いつだって俺はお前の側に居るんだよ

妙子 もう、そんな事ばかり

佐々木 良いじゃないか、こんな時なんだから

佐山 武藤様！笑って笑って！

弟 いくよ！ハイ、チーズ！

と、明かりがつく。みなさんおすまししている。武藤の側には安子が寄り添っている。そのまま固まる。明かりは消えていき、武藤の周りだけサスがはいる。

安子 暗いね
武藤 …
安子 どう？この服。
武藤 …
安子 死ぬのなんて簡単だよ。後先考えなければ。
武藤 …
安子 考えちゃうと死ねなくなるけどね。
武藤 死ぬと何が変わる？
安子 変わる？うーん…何も変わらないなあ。
武藤 変わらないか
安子 うん。例えばこう…目を閉じるでしょ？生きてるときは次に目を開けると朝だ
ったりするじゃない？
武藤 うん
安子 それがなくなるかな
武藤 ああ
安子 昨日と今日が地続きで、それはずーっと変わることがないの。
武藤 生きてるときだってそうだよ
安子 期待も希望も無くなるよ
武藤 え？
安子 だって、時間が進まないから
武藤 …
安子 何も変わらないよ
武藤 暇そうだな
安子 うん、暇。
武藤 …始めは死ぬつもりなんか無かったんですよ
安子 はい
武藤 死にたいよ、って言ったのをあいつが面白がって
安子 あの人？

佐々木にサスがはいる

武藤 そう、あいつ。昔からあいつの言うことに対してなーんか言い返せないんだよ
なあ
安子 いじめられてたの？
武藤 そう言う訳じゃないんだけどさ。あいつって何でも自信満々に言うから言い返
す隙がないって言うか

安子 ふうん
武藤 そしたらあの子が部屋に来て

杉山にサスがはいる

武藤 佐々木が言っちゃったらしいんだけど。俺が自殺するって。来て、俺の遺書に落書きして、何しに来てるんだか。家族も変な家族でさ。あれが弟なんだけど

弟にサスがはいる

安子 あれ弟？
武藤 あいつ自殺したいんだって。憧れてるんだって自殺にさ。

妙子にサスが入る

安子 あの子は？
武藤 あの子は…

佐山にサスが入る

武藤 あいつは
安子 知ってる
武藤 ああ、うん。…佐々木だけに言ったのにいつの間にか知れ渡ってるしさ
安子 …
武藤 全く…
安子 思惑通り？
武藤 え？
安子 思惑通り？
武藤 …
安子 どう責任つけるつもりだったの？こんなに人集めて
武藤 …
安子 この後どうするつもりだったわけ？
武藤 こんなに来るなんて思ってなかったから
安子 死ぬって言ったからでしょ？
武藤 まあ
安子 そうして自分の存在を確認して、満足して、この先どうするの？
武藤 …死ぬ
安子 じゃあ行こう
武藤 死に…たくねえなあ
安子 …あのねえ、

武藤 分かってるって。こんな賑わいはまやかしだって分かってるけどさ。
安子 むなしくなるよ、きっと
武藤 でもこんなに俺のために
安子 面白がられてるんだよ
武藤 それでもさ、それでも俺って以外と
安子 必要とされてるんじゃないかって？
武藤 ……
安子 人気者じゃないかって？
武藤 ……
安子 安っぽい
武藤 ……
安子 薄いね、人として
武藤 ……まあ
安子 みんな見てるよ
武藤 ねえ
安子 どうするの？
武藤 ……どうするかね

全体に明かりがつく。みんなが武藤を見ている。

佐々木 なあ
武藤 うん？
佐々木 どうする？
武藤 ……どうする…
安子 どうするの？
武藤 パ…
佐々木 パ？
武藤 パ…ーティー
佐々木 ……パーティー？
妙子 何で？
安子 何で？
武藤 だって…だってホラ、おかしもあるしさ、飲み物もあるし！勿体ないじゃん！
安子 これから死ぬ人間が
武藤 付き合ってよ！ねえ！最後の晚餐！ね！最後の晚餐だよ！
妙子 私はいいよ
武藤 無いよ！この先無いよこんな体験！これから死ぬ人間とパーティーしましたって話はどこに持っていっても食いつかれるような面白話になるって！
妙子 引かれない？
武藤 だから！面白話の引き出しにしまっておくだけでいいんだよ、いつか使えるときが来るって

弟　　そうですね、そうですよ、もっと話も聞きたいし
武藤　　だろ？ねえ杉山ちゃんももっと書いていいからさ、何？かりあげ君書く？
杉山　　え？いいよもう
武藤　　そんな事言わないでさあ、あなたもね、
佐山　　私ですか？
武藤　　そうだよ、これ葬式だと思えばいいんだよ、ねえ。葬式の後寿司とか食べるじゃん、でさあ、思い出話とかするじゃない、それやろうよ
佐々木　　何で
武藤　　楽しくない？楽しいよ絶対。ね、ホラ、座って座って

武藤はみんなを座らせる

武藤　　…

一同…

安子　　無理があるって
武藤　　じゃあまず！思い出を語り合いましょう！
佐々木　　思い出？何の？
武藤　　俺との思い出
佐々木　　本人目の前にして？
武藤　　死んだものとしてさあ、な？葬式だよ？俺の葬式だよ？俺のこと喋らなきゃ。
じゃあまず佐々木から
佐々木　　俺？
武藤　　色々あったよなあ
佐々木　　うーん…
武藤　　…ホラ、あの時の
佐々木　　あの時？
武藤　　小学生の時さ、釣りに行って
佐々木　　釣り？
武藤　　ヘラブナ釣って、
佐々木　　どうしたっけ？
武藤　　向こうのベンチに座ってた奴がさあ
佐々木　　うん
武藤　　石を投げてきて
佐々木　　ふーん
武藤　　なあ

一同…

武藤 次杉山ちゃん！
佐々木 いいの！？俺全然喋ってないけど
武藤 いいのいいの！杉山ちゃん、ホラ！
杉山 えー、
武藤 分かるよ分かるよ、どれから喋ろうかねえ
杉山 そうじゃなくて
武藤 何？
杉山 いつも気づいたら武藤君がそこに居たって感じだったから
武藤 ああ、自然な感じで？
杉山 違うの。いつの間に居たの？って感じで
武藤 え？
佐々木 なんているの？って感じで？
杉山 そうそう

一同爆笑

安子 ねえ、もうやめなよ
武藤 次！弟！
弟 …まだ思い出というほど時間が…
武藤 葬儀屋！
佐山 こいつ割りですかね
武藤 ああ、あれね、あれは楽しかったなあ
妙子 その時寝てたでしょ
武藤 寝てたんだ
佐山 ええ
武藤 …じゃあ、妙子ちゃんは
妙子 …告白してくれたときに
武藤 …うん
妙子 鼻毛が出てた

一同…

安子 行こう、もう行こうよ
武藤 ……出てたかー！
妙子 出てた出てた
武藤 いいよいいよその調子！もっと盛り上がっていきましょう！
佐山 そうですね、それが故人にたいしての供養にもなりますから
武藤 さあ、食べて飲んで！

みんなはお菓子なんかを食べ出す。喋りながら。

武藤 しかし良い奴だったよなあ

みんなは話をきいていない

武藤 惜しい事したよなあ

みんなは話を聞いていない

武藤 …俺ってな、実は凄いなだけ

みんなは話を聞いていない。武藤は菓子を口に入れる

佐々木 あれ？

武藤 ん？

佐々木 お前大丈夫なの？

武藤 何が？

佐々木 そんなの食って。お前甘い物食べられないんじゃないの？

武藤 え？…ああ、味がしないから

佐々木 ふーん。でさあ（話に戻る）

安子 見てられないよ、もうやめておきなよ

武藤 あのさあ！

一同…

武藤 もし、俺がやっぱり死なないとか言ったらどうする？

一同…

武藤 あ、うん…

みんなはまた喋り出す

安子 収集つかないんじゃないの？

武藤 あのさあ！

一同…

武藤 一つお願いがあるんですが

佐々木 何

武藤 俺さあ、死ぬじゃない？
佐々木 うん
武藤 死ぬ前にさあ、やりたいことがあって
佐々木 何だよ
武藤 その…妙子ちゃんと
妙子 イヤよ！絶対イヤ！
武藤 そうじゃなくて！あの、妙子ちゃんと
妙子 イヤよ！
武藤 そうじゃなくて！…そう、ごっこを
佐々木 ごっこ？何それ
武藤 恋人ごっこみたいな
杉山 何それ
妙子 恥ずかしくないの？
武藤 恥ずかしいけどさ、思い残すことなく死んでいきたいじゃない？
弟 分かります分かります、そうですね
武藤 な？分かるだろ？
妙子 イヤよ、そんなの
武藤 それしなかったら俺死なない！
佐山 え？
武藤 じゃあ俺死なない
佐山 困りますよ
武藤 明日からジムに通う
佐山 そんな健康体に！？
武藤 ね？いいでしょ？最後にさあ
佐山 お願いいたします！
妙子 何で私がそんな事しなくちゃいけないのよ
佐山 ナンボ！やってナンボ！
妙子 やめて下さいよ
弟 バチが当たりますよバチが！
武藤 行け！俺の死に神ども
佐山 ナンボナンボ！
弟 ポーポーポー！
杉山 やってあげれば？それぐらい良いんじゃない？
妙子 えー、だって何すればいいの？
武藤 恋人のフリしてくれればいいんだよ
妙子 ここで？どうやって？
武藤 佐々木と居るときみたいにやってくれればいいんだよ
妙子 えー
佐山 では！早速いきましょう
武藤 はい！お願いします！

妙子　　もう
佐々木　　やってあげてよ
佐山　　せーの！ハイ！

妙子は武藤のチャックに手をかける

武藤　　違う違う違う違う！
妙子　　何が？
武藤　　そういう事じゃなくて！
妙子　　だっていつもやってるようになって言うから
武藤　　やめてやめて、そういう知りたくない情報はシャットアウトをお願いしますよ
妙子　　何をすればいいのよ
武藤　　もっとプラトニックに！優しいそよ風のような感じで！
妙子　　どうすればいいのか分かんないよ
武藤　　だから！デートするでしょ？外でさ、そんな感じのことをやって欲しいのよ
妙子　　だってここ家の中だよ？
武藤　　ごっこだから！ね？
妙子　　デート？
武藤　　そう、デート
佐々木　　なあ
武藤　　何だよ
佐々木　　俺達は何してればいいんだよ
武藤　　…じゃあ、お前らエキストラな
佐々木　　何それ
武藤　　エキストラだよ、脇役だよ、ちょい役だよ
杉山　　あ、何か面白そう
武藤　　ね？でしょ？
佐々木　　じゃあ俺、総理大臣やる
武藤　　…え？
佐々木　　総理大臣
武藤　　ちょい役で？
佐々木　　総理大臣、まかせろって。邪魔はしないから
武藤　　…まあいいや、危険な香りが漂ってるけどまあいいや
杉山　　私はねえ
武藤　　何？
杉山　　あぶさん！
武藤　　…代打の切り札？
杉山　　うん
武藤　　杉山ちゃんってさあ、ビッグコミックだったらスペリオール？
杉山　　え？
武藤　　まあいいや、じゃあ

弟 おらグズラだど！
武藤 は？
弟 僕もやりたいですよ
武藤 何を？
弟 おらグズラだど！
武藤 それを？やるの？
弟 はい、おらグズラだど
武藤 それはどこに句読点が入るわけ？おらの後？
弟 グズラですグズラ
武藤 二回言われても全く見えてこないよ、グズラの正体が
弟 邪魔はしませんから
武藤 …（佐山を見る）
佐山 （カバンからコーラの瓶を取りだして）私ブッシュマンで
武藤 用意してたの！？それ！
佐山 ああ、とんだ偶然ですなあ
武藤 回るのか！？これで円滑に回るもんなのかい？
佐々木 よし！やろう！
弟 盛り上がってきたなあ
佐山 皆様、武藤様を気持ちよくご臨終させてあげましょう！

武藤と妙子、安子以外「オー！」

安子 何やってんの？
武藤 …妙子ちゃん、よろしく
妙子 まあ、しょうがないでしょう。こうなったら
武藤 …それじゃ、行きます。…待った？ご免ね
妙子 え？…ああ、うん。今来たところ
武藤 そうか。じゃあ、
妙子 今日はどこに連れていってくれるの？
武藤 え？あー、
妙子 ？
武藤 どこにも行きたくないな。
妙子 え？
武藤 歩いて、話しよう
妙子 それだけ？
武藤 それだけ。それだけでいいから
妙子 分かった。

二人は歩き出す

妙子は武藤の腕に手をかける。

武藤 …へへ

二人は歩き出す。と二人の目の前にブッシュマンが現れる。目が合う。

妙子 どうしたの？

武藤 絡んだ方がいいよね？やっぱり。協力して貰ってる訳だし。

佐山 アーアーウー（コーラの瓶を不思議そうに）

武藤 あー、ブッシュマンだよ妙子ちゃん

妙子 あ、本当だ

武藤 ねえ

妙子 うん

佐山 アーアーウー

武藤 ちょっと待てちょっと待て！

佐々木 何だよ、どうした？

武藤 ブッシュマンだよ妙子ちゃんの後どうすりゃいいのか俺にはわからん！

佐々木 そう言うなよ、折角一生懸命やってくれてるんだしさあ

佐山 アーアーウー

武藤 絡みづらいよ、もの凄く

佐々木 続けて続けて

武藤 あー、あれかな？あの

妙子 何？

武藤 アフリカの人がさ、こっちに来るとやっぱり寒いのかな？

妙子 そうかもね、だからアーアーウーって言ってんのかな

武藤 あ、そうだそうだしとね、うん、そう言ってるんだ

そこにグズラが入ってくる

弟 おらグズラだど

武藤 …

弟 アーアーウー

妙子 アレは何て言ってるんだらう

武藤 ちょっと待て！

佐々木 何だよもう！

武藤 やっぱり俺にはグズラの正体がわからん！微妙だ！微妙なキャラすぎだ！

弟 グズラは怪物ですよ。ハイ、アーアーウー

武藤 怪物ですよ言われて俺はどうすればいいんだよ

弟 続けて下さいよ

武藤 続けざまにアーアーウー言われてみろよ、だって二人のアーアーウーって微妙に意味が違うわけだろ？

佐山 私のはアーアーウー
弟 僕のはアーアーウー
武藤 一緒じゃん

佐山と弟は顔を見合わせて「フッ…」と笑う

武藤 一緒じゃねえよって？何それ？俺だけ？意味が通じてないのは
佐山 アーアーウー
弟 アーアーウー
武藤 答えろよ！？分かる？分かる？妙子ちゃん
妙子 分かんない
武藤 分かんないよねえ
妙子 でも
武藤 え？
妙子 面白い（笑う）
武藤 …
妙子 え？
武藤 いや…それなら、いいんだ。
妙子 え？
武藤 いいんだよ、それだったら。
妙子 （笑う）

そこにあぶさんが入ってくる。

妙子 あ、誰だっけ、あれ
武藤 あぶさんだよ
妙子 あぶさんって何？
武藤 あぶさんってさあ、水島シンジが書いてる漫画の主人公で。野球の選手
妙子 ふーん
武藤 格好良いんだよなあ
妙子 え？好きなの？
武藤 憧れてるんだ、実は
妙子 へー
武藤 なりきってるなあ、杉山ちゃん
杉山 …アーアーウー
武藤 お前もか！なあ！
妙子 みんなアーアーウーだね
武藤 おい！これは後ろでこう言おうって決めてた訳？
佐々木 何が
杉山 アー
弟 アー

佐山 ウー
妙子 ああいうのに憧れてたんだ
武藤 いやいや、怒られるよ水島先生に！
妙子 おもしろーい
武藤 …じゃあ、いいか
妙子 喉乾いちゃったな
武藤 え？じゃあ、喫茶店でも入ろうか
妙子 うん

二人はテーブルの前へ。3人は奥へと引き返す

武藤 …
妙子 (ジュースを飲む)
安子 何か喋りなよ
武藤 あー、
妙子 ん？
武藤 いや、妙子ちゃんさ、生きてるなあって実感するときある？
妙子 え？
安子 何よいきなり
武藤 いや、何か、うん、そうか
妙子 無いよ
武藤 …無いの？
妙子 だって自分が生きてることって当然じゃない？
武藤 当然ねえ
安子 成る程
武藤 あ、いや、例えば夜にさ、こう、ふと空を見上げたりして、星があるでしょ？
妙子 うん
武藤 そうすると星って綺麗だなあって思ったりするじゃない？
妙子 うん
武藤 普段は気にもとめてないのにさ
妙子 うん
武藤 ああ、綺麗だなあって。でも実は俺が見てなかっただけで毎日星は輝いている
わけで。
妙子 うん
武藤 そんな感じ
妙子 え？
安子 何？
武藤 ああ、いや、だからさ。当然そこにある物を、いつもみたいに素通りしないで
さ、立ち止まって見てみたら美しく見えたりして、ふと自分に立ち返るって言
うか

妙子 うん
武藤 ああ、当然じゃなかったんだって。素晴らしい物だったんだなあってさ
妙子 うん
武藤 うん
妙子 え？
安子 何！？
武藤 勿体無いなあって、思ったりする…
妙子 何が？
武藤 星が光ってるのを忘れてたりすることが
妙子 …はあ
武藤 ごめん…

沈黙が訪れる

武藤 俺ね
妙子 うん
武藤 俺

そこに総理大臣が入ってくる

佐々木 相席よろしいですか？
武藤 え？
妙子 あ、どうぞ
佐々木 では失礼して。店員はどこかな？

ブッシュマンが出てくる

佐々木 あー君かね。ちょっとちょっと、ブッシュマン
佐山 いらっしゃいませ
武藤 喋れるんじゃん！喋りなさいよさっきも
佐山 ご注文は
佐々木 コーヒーとピフテキを
佐山 かしこまりました
妙子 さすが総理大臣ね
武藤 あ、うん、そうね…
佐山 ああ、お客様
佐々木 うん？
佐山 コーヒーはいつお持ちいたしましょうか
佐々木 後でいいや
佐山 かしこまりました

武藤 ああ、こっちもコーヒーをおかわり下さい
佐山 アーウー？
武藤 この野郎
妙子 まあまあ
武藤 …意図がずれてきてるんだよなあ
ブッシュマン引っ込む

佐々木 (携帯を取りだして) あーもしもし、クリントン？どう調子は？
妙子 クリントンだって、すごいね、さすが総理大臣だね
武藤 今もうクリントンは大統領やってないよ
妙子 え？そうだっけ
武藤 ブッシュだよ、今の大統領は
妙子 そうなんだ
武藤 知らなかったんだろうなあ、こいつ
佐々木 …ブッシュ居る？
武藤 無理があるよ無理が。思いっきり日本語だし
妙子 私も喋ってみたいなあ
武藤 妙子ちゃん、そんな事よりさあ
佐々木 戦争？受けてやるよこの野郎
妙子 フフ
武藤 妙子ちゃん
佐々木 ああ、イチロー？頑張ってるねえお前
妙子 あ、イチローも居る
佐々木 まじかよデニーロ
妙子 うわー好きなんだデニーロ
佐々木 いい加減にしろよブラッドピット
妙子 ブラピだ！
武藤 どんな集まりやってるんだよお前の電話先で！
妙子 いいなあ、面白そう
佐々木 喋ってみます？
妙子 え？いいんですか？
佐々木 どうぞどうぞ
武藤 妙子ちゃん、妙子ちゃん
妙子 え？何？
武藤 あ…いや
妙子 もしもし？
佐々木 誰が出ました？
妙子 えーっと
佐々木 声でわかりませんか？
妙子 うーん…

弟が少しだけ出てきて

弟 ポー！
妙子 マイケルジャクソン！
佐々木 ご名答
妙子 すごーい！

佐々木と妙子は仲むつまじい。武藤は取り残される。

安子 終わりにしよう、ね？
武藤 妙子ちゃん、店出よう！
妙子 え？
武藤 海行こう！海！

武藤は妙子を無理矢理立ち上がらせて

武藤 ホラ、海！
妙子 え？ああ、うん
武藤 俺ね
佐々木 今海にいるんだけどさあ
武藤 お前まだ居るの！？
佐々木 来いよ来いよ、
武藤 呼ぶな呼ぶな

ワラワラと一同入ってくる

武藤 来るなよそれで！

みんなは妙子の側に行く。そして何事か楽しく盛り上がっている

安子 何か言いなよ
武藤 何を？
安子 思ってること
武藤 思ってること
安子 続けなよ、ごっこ
武藤 …妙子ちゃん！
妙子 え？
武藤 俺、思ったんだけど
妙子 何？

武藤 別れよう
妙子 え？
武藤 いつもさ、何て言うの？こう暮らしてて、普段は別に思わないんだけどさ、何かがある度に君のことを思い出したりするわけだよ。さっき言ったじゃない？星の話。こう、歩いててさ、スタスタスタスタ？でふと足を止めて、それも何の気無しに足を止めるわけなんだけど、その時にパッと空を見上げるとこれが、綺麗なんだまた。それで、思うわけだ。ああ、自覚してないだけで俺はずっと君のことが、うん、そうだったんだなあってさ。

妙子 え？良くわからないけど
武藤 気づいちゃった訳だよ、君のこと、あれだって事に。それからは何て言うの？星ばっかり気になっちゃって気になっちゃってね、もう、気づかずに歩くこととか出来ないわけ。勿論君ばかりじゃなくて、他のことも俺の中にはあるわけだけど、いつだって、今日だってね、思ってるわけだよ。君のことを自覚しながら

佐々木 ホラ、ごっこなんだから合わせないと
妙子 え？ああ…私だって思ってるよ
武藤 うん…
妙子 覚えてる？初めてデートした時のこと
武藤 …覚えてるよ
妙子 楽しかったね
武藤 うん、そうだね。何であんなに時間がゆったり流れてたんだらうって思うよ
妙子 そうだね
武藤 俺の時間の中に誰かが入ってくるとこんなに騒々しくて、でも楽しくてね
妙子 あ、うん
武藤 楽しくて楽しくて、でも疲れたりもしてさ
妙子 え？何か合わせづらくなってきたな
佐々木 なあ
武藤 君のこと、全てだって思いたいって、思ってたんだけど…やっぱり無理だった
妙子 武藤君
武藤 嫌いだよ、お前なんか
妙子 …え？
武藤 だから別れよう
安子 …（拍手をする）

一同…

佐々木 これは、ごっこが終わったって事かな？
弟 そうじゃないですかね
杉山 よく分からなかったけどね
妙子 うん

佐山 それじゃあ武藤様。そろそろ…
武藤 え？
佐山 そろそろ支度の方を…
武藤 ああ、俺死なないよ
佐山 え？
武藤 死なない
弟 そんな！
武藤 最初から死ぬ気なんか無かったよ馬鹿野郎
佐山 騙したんですか！
武藤 冷静に考えれば分かるだろ？誰が自殺なんかするかよ
佐々木 だってお前
武藤 普通遺書なんていじくらせるか？そんな風にさ。遊びだよ遊び。お前ら暇そうじゃん？
杉山 ひどい
弟 そうですよ！非道いじゃないですか
武藤 何で？面白くなかった？
妙子 何なのこの人
佐山 ここまで付き合わせて
武藤 遊びだよ遊び。お前が杉山ちゃん口説いたりするようなものだって
佐々木 え？
武藤 お前が俺の家に女連れ込んで遊んでるようなもんだって
妙子 何それ
佐々木 そんな事してないだろ
武藤 杉山ちゃんだってさあ、さっき以外と本気だったでしょ？
杉山 え？
武藤 俺が止めなかったらここで佐々木と行くところまで行ってたんじゃない？
杉山 何言ってんの
武藤 杉山ちゃん、人のこと言えないよ
杉山 え？
武藤 妙子ちゃんのことヤリマンだって言ってるけどさあ、自分だってそうじゃん
杉山 言ってないでしょそんな事！
武藤 言ってるじゃない
杉山 言ってないからね
妙子 馬鹿じゃないの、あんた
武藤 俺？
妙子 そう
武藤 お前ほどじゃないだろ、騙されてることに気づかないでさ
妙子 …（帰ろうと）
武藤 なあ、フス
妙子 え？

武藤 お前ブスだから、そんな事やられちゃうんだよ。ブスだよなあ
佐々木 ブスじゃねえよ
武藤 ブスじゃない？
杉山 ブスじゃない
武藤 ブスだから騙すんじゃないの？…妙子ちゃん、自分のことブスだと思う？
妙子 …
武藤 思ってるなら、言ってよ。自分の口で。
妙子 …
武藤 言ったら言われるよ。お前は自分が思ってる程じゃないって。王手飛車取り！
って感じでさ
佐々木 …お前、ここまでしてさあ、
武藤 何だよ、友達じゃなくなるの？
佐々木 当たり前だろ
武藤 じゃあ死んだな
佐々木 え？
武藤 お前らの俺は死んだよ。…葬式、あげますか？
佐山 …失礼いたします（出ていく）
武藤 実感するよ、生きてるってさ
弟 帰ろう、姉ちゃん
杉山 うん
武藤 写真撮れよ、死体写真
弟 …

弟と杉山行く

佐々木 お前の言ってること、訳が分かんないよ
武藤 俺な
佐々木 え？
武藤 お前が思ってるほど駄目な奴じゃなかったみたい
佐々木 え？
武藤 俺、ハンサムだろ？

佐々木、妙子を連れて行こうとして

武藤 妙子ちゃん！
妙子 …
武藤 あの時、お前も鼻毛出たよ

二人出ていく

武藤 …ふう
安子 …で、どうするの？

武藤は机の方に向かって歩いていく。そして銃を取り出す

武藤 買ったよ。これ。高かったんだよなあ
安子 本物？
武藤 多分

言いながら武藤はこめかみに銃を押しつける

武藤 …昨日と今日が地続きで、何も変わることがない。
安子 死んだらね
武藤 …

武藤は引き金を引こうとする

武藤 はああ！ 恐え！
安子 何それ
武藤 だってもしかしたらさ、次宝くじ買ったら3億円あたるかもしれないでしょ？
安子 …
武藤 あの世にそれは無いだろうからねえ
安子 馬鹿みたい（帰ろうと）
武藤 どう思う？ 俺見て
安子 …あーあって、思う
武藤 そう
安子 じゃあ
武藤 どこ行くの？
安子 あの弟、自殺するんでしょ？
武藤 ああ
安子 タイプじゃないけど
武藤 贅沢言うなよ
安子 …あんたよりはマシかなと
武藤 成る程
安子 じゃあ
武藤 情けねえなあ
安子 情けない
武藤 結局何も変わってねえや、俺
安子 何か変わる思ってやったわけ？
武藤 思ってたかもなあ

安子 ダラダラダラダラうるさいなあ
武藤 しかたないじゃん、俺、生きてるんだから
安子 …呪い殺すよ
武藤 じゃあね
安子 じゃあ
安子出ていく

武藤 （携帯を取りだし）…さて、何て謝ろうかなあ…（こめかみに銃を押し当てて）
うほお！ 恐え！ …生きてるなあ俺…（遺書を書いていたノートを見て）
父ちゃん母ちゃん不幸をくれよ、もっと何かこう…生きてるって実感できるやつ！（ノートを投げ捨てる）

音楽が入る。暗転

終わり